



ひめまつ

須賀学園創立100周年記念特集号

55

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次

(第五十五号)

表紙……………中村由佳理

題字……………石川木魚

写真……………写真部・編集部

須賀学園創立百周年を迎えて……………校 長 須賀 淳……………1

全人教育の理想受け継ぎ 副校長に就任して……………副 校 長 須賀英之……………4

祝 辞

大きな飛躍を望む……………栃木県知事 渡辺文雄……………7

ますますの御発展を祈る……………宇都宮市長 福田富一……………9

あいさ

自己研鑽を積んでゆく決意……………生徒会長 熊谷憲一……………11

特 集

創立百周年を祝う……………13

記念式典・祝賀会・記念特別演奏会・記念学校祭・須賀学園百年史の刊行・創立百年記念学園歌

記念事業……………17

宇短大に人間福祉学科・新しく医歯薬特進コース・須賀英之副校長の紹介(産経新聞連載企画)

須賀学園の一〇〇年年表……………21

◇生徒による生徒会を(生徒会長に就任して)……………齋 藤 亜佑美……………32

◇新しい時代に向けて(任期を終えて思うこと)……………熊 谷 憲 一……………33

声

創立百周年にあたって……………34

「百年の伝統と夢を背負って」 三年 大江 寛子

「新しいものにチャレンジ」 三年 小室貴美子

「伝統と飛躍」 二年 佐伯 有紀

「未来へ向けて」 二年 吉澤 慶子

「百周年を迎えて」 一年 甲賀めぐみ

「大きな区切に思うこと」 一年 齋藤 麻衣

「創立百周年にあたって」 一年 本澤 慶峰

「すばらしい学校にしよう」 一年 木村 聖子

*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)……………38

一位「燃えよ剣」 三年 館野由香里

二位「車輪の下」 三年 岩尾 麻子

三位「塩狩峠」 三年 田村 徹郎

一位「人間失格」 二年 箕輪 律子

二位「風立ちぬ」 二年 平塚 敦江

三位「川の見える病院から」 二年 奥山 紗由

一位 「ジークル博士とハイド氏」 一年 松本奈津子
二位 「塩狩峠」 一年 龍野安里沙

三位 「だからあなたも生きぬいて」 一年 鈴木 佑香

◆作品集

詩

〔二年〕つなかわゆかり

〔二年〕江面 麻衣

俳句

〔二年〕加藤 菜摘

〔二年〕仁村 歩

★あとらんだむ

二年間の反省 宇賀神 智子〔旧二年〕 一年間の反省 白石 圭太郎〔旧一年〕
浙江省で国際青少年夏令营 一年 小出 智美

月関西・山陽・大笹・那須の旅

〔三年〕 修学旅行に学ぶ 村上 友紀
〔二年〕 大笹牧場での思い出 本山 理沙子
〔二年〕 自然を感じる 山本 太朗
〔二年〕 一日旅行「りんどう湖へ」 由木 清花
〔二年〕 慣れないクラスでのりんどう湖 石濱 祥子

招待席

カントのことは 青柳 進 芭蕉の愛した町・黒羽 和久 誠

◆わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

◆委員会・クラブ報告

編集委員会 茶道部 書道部 美術部 写真部 JRC部 弓道部
男子バレーボール部 剣道部 卓球部 将棋部 華道部 サッカー部
服飾手芸部 女子バレーボール部 新体操部

★学園告知版

P.T.A.総会開く・西村さんらにご褒美・英之副校長先生の歓迎会
中国・フランスに海外研修旅行・ハウイックカレッジと交換研修・スウェーデンからお友だち
学校祭の先生似顔絵展・教育実習生、母校の教壇に

附属中コーナー

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詞 菅谷 徳次郎
作曲 野原 幸夫

ふに たら の たし 一 かけ ねを はるめ かま につ あお まー ぎつ
 まか なわ びら のぬ みみ ちさ すお じは まち さよ きよ くろ あず れよ とと
 かか たた みに ち一 かわ い て い そそ しし みは はげ むむ
 おま しな えび のに 一 わわ こそ げに に とめ うで とた けれ
 ああ わわ れれ とめ うで とた こ一 のの まま なな びび やや

校歌

一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
 学びの道筋 まさきくあれと
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教えの庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
 変わらぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや

◎平成十二年度生徒会報告

☒就職状況

☒職員住所録

☒編集後記

編集委員長

下山

祐亮



記念式典

創立100年を祝う

▲1世紀にわたる長い歴史と伝統に輝く創立100周年記念式典（須賀栄子記念講堂大ホールで）



▲本校のオーケストラと合唱団で創立100周年記念学園歌を発表



▲招待者にあいさつをして回る英之副校長先生



▶永年勤続者を代表して校長先生から表彰を受ける太田教頭先生



▶在校生を代表して熊谷憲一生徒会長があいさつ



▲式典のあとは小ホールでなごやかに祝賀会

一人は
一校を
代表
する

▶ 私たちの作品を私たちがモデルになって、自作自演する生活教養科のファッションショー。



▶ 伝統あるバザーのスタッフ一同

▶ 東大のヴォーカルグループも特別出演。左から2人目は本校卒業生の吉新拓世先輩（東大文一）



▲JRCの募金活動



▲こちら大繁盛の売店です

▶ サンドイッチマンが登場



特別演奏会

▶ 600名の大合唱団による特別演奏会は会場を圧した。
（栃木県総合文化センターメインホールで）



▲ソリスト大貫裕子先輩（東京芸大卒）



▲指揮者田淵進短大副学長先生



▲ソリスト城守香先輩（東京芸大卒）



▶ 合唱団は会場の客席・通路にまで……

▶ ステージからお礼の言葉をのべる校長先生、左へ万里子副校長、英之副校長の両先生



学園の四季



▲善行グループに校長先生からごほうび (6月9日)



▲校長先生の笑顔に送られていま卒業す (12年3月2日)



▲校長先生も街頭に立ってインターアクトの奉仕活動 (9月27日)



▲若さが爆発一校内球技大会 (7月9日)

生徒会役員

 副会長 森田 政義	 副会長 坂本 絵美	 会長 齋藤 亜佑美	
 庶務 中村 一弥	 庶務 小林 真実	 会計 手塚 彩由美	 会計 渡邊 清誉
 議長団 濱田 政樹	 議長団 松本 智尋	 議長団 佐々木 真美	 議長団 村田 光昭

須賀学園創立百周年を迎えて
— 創立百周年記念式典あいさつ —

校長 須賀 淳 あつし



須賀学園の創立百周年に当り、渡辺栃木県知事様、福田宇都宮市長様をはじめ、多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、須賀栄子記念講堂において記念の式典を挙行することができまことは、私の心からよろこびとするところであります。

顧みますと、明治三十三年十一月三日、私の祖母須賀栄子が、二十七歳の女性の身をもって本学園を創立して以来百年。この間、明治・大正・昭和・平成と幾多の風雪はありましたが、おかげさまで中学・高校・宇都宮短期大学・那須大学と今日の姿に発展することができました。これもひとえに教職員、卒業生、保護者の皆様のおかげです。

業生、在學生、御家族の皆様方の御尽力と、それをあたたかく支えてくださいました多くの関係者の方々の御支援によるものであります。

本学園は、創立者の須賀栄子、第二代の須賀友正、そして私と、三代百年にわたり、建学の精神を受け継いで私学教育に邁進してまいりました。創立者須賀栄子の膝下で育った私は、学園創業の苦難も子供心によく知っておりますし、父須賀友正の守成の努力、とくに戦中、戦後の激動の時代の苦難は、私自身も身をもって体験しているところであります。

私学は独自の高尚な理想と信念によって設立されています。いわゆる建学の精神であります。この百年の間、本学園の教育理念である「全人教育」に力を尽くしてまいりましたが、私は、教育は人間の仕事のなかでも最も尊いものであると同時に、最も難しいものであると思います。そして時世はつねに移り変わります。教育もまたその時代の要求に応じて新しく脱皮してゆかなければなりません。古きのみ守ってはいけませんし、また新しいものばかりを追ってはいけません。孔子も「故きを温ねて新しきを知れば、以って師たるべし」といっております。いま平成の新しい時代は、IT革命という大きな転換期に入っております。二十一世紀の社会が教育にもたらすであろう可能性と問題点を見据えながら、本学園も大きく発展してゆかなければなりません。

本学園は現在、卒業生四万五千名、在學生三千九百名を擁する中学・高校・短大・大学となっておりますが、この学園の発展は一朝一夕になしえたものではありません。創立者須賀栄子がか弱い女性の一身を賭して営々と築き上げた辛苦の賜であります。私はつねに自粛自戒、もって創立者の理想を継承して、本学園の充実発展に務め、学生生徒の教育に全力を傾注したいと考えております。

P.T.A、同窓会の方々、そして直接私を支えてくださっております教職員の先生方には、これからも末永く本学園に対して変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう心からお願いいたします。在學生の皆さんは、意義ある本日の創立百周年の記念式典に際し、本学園の長い歴史と伝統を思い、心を新たにして、「一人は一校を代表する」の生活目標のもと、一心に勉学に励んでいただきたいと思っております。



創立者
須賀栄子先生



第2代校長
須賀友正先生

全人教育の理想受け継ぎ

副校長に就任して

副校長 須賀英之



毎年、三月の須賀学園理事会・評議員会において、あざやかな表紙に装われた「ひめまつ」が配られます。東京にいて直接生徒のみなさんとふれあう機会の少なかつた私にとって、ひめまつは学園と私をむすぶ絆でした。多彩な生徒会活動や楽しい学校行事が盛りだくさんに紹介されていて、学園の様子がいきいきと伝わってきます。また、生徒の若者らしい文章から新しい時代の息吹が感じられ、私自身をさわやかな引き締まった気持ちにさせてくれました。

昨年十月に副校長に就任しましたが、学園は、実際にもひめまつ印象そのもので、「一人は一人を代表する」の言葉どおり、一人一人がのびやかに生活する明るい学校でした。「ひめまつ」のおかげで、まるで昔から奉職していたように思えて、すぐに学園になじむことができました。わたしは、これまで銀行の仕事を通じて日本の企業の盛衰を目の当りにしてきましたが、「発展する企業には、バランスのとれた優れた人材がたくさんいて、しかも経営者が常に人材育成にこころを配っている」ということを実感しました。

私もこれから、須賀学園の全人教育の高い理想をしっかりと受け継ぎ、次代を担う情操豊かで専門能力の高い国際感覚にあふれる人材を育てていきたいと思えます。そして、次のことを目標にがんばっていかうと考えています。

生徒の皆さんのもって生まれたたくさんの長所のひとつひとつに丁寧に光をあてて、できるかぎり個性をのばしてあげること。

保護者の方々と意思疎通を密に、かたい信頼関係を築き、ご家庭と学校を教育の両輪として大

切にはぐくむこと。

地域社会の文化・経済・環境・福祉などに学園としても貢献すること。

校長先生は須賀学園創立百周年記念式典において、「教育は最も尊くかつ困難な仕事」とのべていますが、私は本学園の先生方と一緒に精一杯努力し、生徒の皆さんの教育に全身をささげていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

昭和30年1月	東京都港区南青山で生まれる。	平成5年5月	本店営業部第四課長
昭和42年3月	東京都港区立青南小学校卒業	平成9年6月	本店営業部第十一課副部長
昭和45年3月	私立武蔵中学校卒業	平成11年10月	本店営業部第十部兼業務部副部長
昭和48年3月	私立武蔵高等学校卒業	平成12年9月	日本興業銀行辞任
昭和52年3月	東京大学経済学部経済学科卒業	平成12年10月	那須大学副学長
昭和52年4月	日本興業銀行入行 本店外国営業部、大阪支店、本店人事部勤務		宇都宮短期大学学長代理
昭和57年9月	学校法人須賀学園理事(副理事長)		宇都宮短期大学附属高等学校副校長
平成3年6月	本店産業調査部主任部長		宇都宮短期大学附屬中学校副校長

祝辞

大きな飛躍を望む

栃木県知事 渡辺文雄



須賀学園ではこのたびめでたく創立百周年を迎えられ、記念式典および記念特別演奏会が盛大に開催されますことを心からおよろこび申し上げます。

須賀学園は、須賀栄子先生が、明治三十三年十一月に栃木県で初めての女子私学を宇都宮市に創設され、以来、百年の歴史と伝統を刻みながら、建学の精神である「全人教育」を実践され、社会の変化に対応できる個性ある人材の育成に努めてこられました。

そして昭和四十二年には宇都宮短期大学音楽科を開学され、栃木県の音楽文化の向上に大きく寄与しております。

また、昨年四月には、創立百周年記念として那須大学を開学され、中学校から大学までを擁す

る有数の総合教育を行う学園として、確固たる地位を築かれました。さらに来年四月には、宇都宮短期大学に、音楽科に加えて人間福祉学科を開設されるなど、高等教育の一層の充実に努めておられます。

これまで須賀学園から巣立った卒業生は四五、〇〇〇人を数え、県内外の様々な分野において幅広く活躍し、各方面から高く評価されておりますが、これもひとえに、「全人教育」を建学の精神として、生徒や学生一人ひとりの個性・能力・特性に応ずる教育と生活指導の徹底に努めてこられた成果と思えます。

二十世紀もわずかとなりましたが、私たちを取り巻く社会経済環境は、大きな転換期にありまして、社会の変化に柔軟に対応できる個性的で創造的な人材を育成していくことが、二十一世紀においても我が国が持続的発展と国際的な地位を確保していくために必要不可欠であります。

このような中で、須賀学園が、この創立百周年を一つの節目として、長年にわたり培ってきたその輝かしい歴史と伝統を引き継ぎ、輝かしい二十一世紀に向けて大きく飛躍されようとすることは、誠に意義深いことと考えます。

須賀学園が創立百周年を機に、さらなる発展を遂げられ、その建学の精神を生かされますよう心から祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

(平成十二年十一月九日の須賀学園創立百周年記念式典にて)

祝辞

ますますの御発展を祈る

宇都宮市長 福田 富一



西暦二〇〇〇年という記念すべき年に、須賀学園が創立百周年を迎えられ、記念式典および記念特別演奏会が盛大に開催されますことは、宇都宮市といたしましてもこの上ない喜びであります。

須賀学園は明治三十三年の創立以来、「一人は一校を代表する」という、「全人教育」の教育理念のもと、豊かで熱情あふれる人間教育を実践しております。

百年という誇り高い伝統をもちながらも、明るくのびやかな校風に、宇都宮市をはじめ県内外からも、多くの学生生徒が集まってこられ、その教育方針は多くの支持を受け、高く評価されておられるところであります。

宇都宮短期大学および附属高校は学生・生徒の能力と適正に応じた多様な教育がなされており

ます。とくに音楽科は宇都宮市の音楽文化の向上に大きく寄与しております。

このたび開催されました「緑花祭」のイメージソング「バナバナ」の歌は、附属高校音楽科の生徒さんがお歌いになっておられるものであります。フェアにふさわしい、親しみやすくさわやかな歌で、多くの皆様にたいへん好評でした。

近年の高齢化社会はますます進展し、社会福祉の現場で働く専門職の養成が緊急課題となっております。このようななか、来春には、宇都宮短期大学に新たに人間福祉学科が開設されますことは、まさに時宜を得たもので、常に時代の流れに即した姿勢に、深く敬意を表するところであります。

宇都宮市といたしましても、「宇都宮やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり条例」を本年四月に制定いたしました。市民一人ひとりにやさしい環境や、心温まる社会となるよう、福祉のまちづくりに積極的に努めてゆきたいと考えております。

この輝かしい創立百周年を契機といたしまして、須賀学園がますます御発展されますよう祈念いたし、お祝いの言葉とさせていただきます。

(平成十二年十一月九日の須賀学園創立百周年記念式典にて)

あいさつ

自己研鑽を積んでゆく決意

― 創立百周年記念式典に当たって ―

宇都宮短期大学附属高等学校 熊谷 憲 一

木々の鮮やかな彩りの中に、菊の香薫る今日のよき日に、多数のご来賓の方々の御臨席をいただき、須賀学園の創立百周年記念式典が盛大に挙行されますことは、私たちが在学生にとりまして大きな喜びです。また、私たちはこの記念すべき年に本学園に在学できた感激と学園の長い歴史を心にかみしめているところです。

本学園は、明治三十三年に産声をあげ、創立者須賀栄子先生の崇高な教育の情熱と、「全人教育」の理念のもとに四万五千人の先輩たちが学んできました。明治、大正、昭和、そして、平成と、百年にわたる長い歴史の中には、戦争による校舎全焼、戦後の混乱など、幾多の困難がありました。第二代の須賀友正校長先生をはじめ、先生方や関係者の皆様の並ならぬご努力により、その苦難を乗り越えて、今日の学園の姿を見ることができたのです。本学園は、中学、高校、短大、そして平成十一年には百周年を記念して那須大学が創設されました。また、来年四月には宇都宮短期大学に人間福祉学科が増設されるなど、学園は来るべき二十一世紀に向けて大きく羽

ばたいています。

創立者須賀栄子先生の建学の精神は、第二代校長須賀友正先生、第三代校長須賀淳先生へと受け継がれて光り輝いています。さらに本年十月には、須賀英之先生が副校長に就任されて、学園の発展の気運も一段と高まっています。

この創立百周年を迎えた本日、私たちは学びの決意を確かめ合い、校長先生をはじめ先生方の愛情を一心に受けて、学生生徒四千名が、不断の自己研鑽を積んでゆく決意を新たにしたいところです。

来るべき二十一世紀の扉は、もうすぐ開かれようとしています。この新しい世紀の幕開けと歩みを同じくして、本学園の新たな一歩が記されるわけですが、私たちは、この歴史と伝統に育まれた本学園の学生生徒として、「一人は一校を代表する」という生活目標のもと、「自信と誇り」をもって勉学に励みたいと思います。

御来賓の皆様、卒業生の先輩の皆様には、今後とも、本学園に学ぶ私たち学生生徒を温かく見守ってくださいますようお願いいたします。

本学園の栄えある創立百周年の記念式典にあたり、私たちの感激と決意を述べて、在学生代表のあいさついたします。

(平成十二年十一月九日の須賀学園創立百周年記念式典にて在学生代表あいさつ)

特集 創立百周年を祝う

―記念式典など盛大に行わる―

一人ひとりの個性や才能、関心を生かす全人教育という建学の精神をきっかけ、一世紀にわたる長い歴史を刻んできた本学園は、平成十二年十一月に創立百周年を迎えました。

百周年の記念事業として、すでに平成十一年四月には、わが国初の都市経済学部による那須大学が開学し、また平成十三年四月には時代のニーズにこたえて、宇都宮短期大学に新たに人間福祉学科が増設されます。

さらに百周年記念行事として、平成十二年十一月九日には須賀栄子記念講堂大ホールで創立百周年記念式典が盛大に行われました。

つづいて二十五日には、県総合文化センターメインホールで、本学園の教職員や学生生徒、卒業生など六百名による創立百周年記念特別演奏会が開かれました。

これらに先だって平成十二年十月二十八日、二十九日には百周年記念学校祭がにぎやかに繰りひろげられ、百周年を祝うとともに、これを一つの節目として、さらなる学園の発展を誓い合いました。

〔記念式典〕

記念式典は平成十二年十一月九日午前十時から本校の須賀栄子記念講堂大ホールに来賓三百五十名をお招きして行われました。

須賀英之副校長先生の開式のご挨拶、国家斉唱につづいて須賀 淳校長先生が「明治三十三年十一月三日に、私の祖母須賀栄子が二十七歳の女性の身をもって本学園を創立して以来満百年。この間、明治・大正・昭和・平成と幾多の風雪はありましたが、おかげさまで中学・高校・短大・那須大学と今日の姿に発展することができました。私はつねに自粛自戒、創立者の理想を継承して、本学園の充実発展に務め、学生生徒の教育に全力を傾注したいと存じます。これからも末長く本学園に対しまして変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます」とあいさつしました。(詳細は巻頭の校長あいさつに掲載)

つづいて、長い間本学園のために尽くしてこられた永年勤続教職員の太田茂雄教頭先生はじめ二十八名の方々が表彰されました。

席上の来賓者を代表して、渡辺文雄栃木県知事と福田富一宇都宮市長のおふたりが前出のような祝辞をのべられました。

なお在校生を代表して熊谷憲一君が、「この創立百周年を迎えた本日、私たちは学びの決意を確かめ合い、校長先生はじめ先生方の愛情を一身に受けて、学生生徒四千

名が、不漸の自己研鑽を積んでゆくつもりです」と力強く決意をのべました。

以上の式典終了後、本学園の教職員、学生生徒、卒業生で編成されたオーケストラ（指揮、田淵 進、宇都宮短期大学副学長）と合唱団による創立百周年祝典序曲と創立百周年記念学園歌が演奏されました。

この記念学園歌の歌詞は、那須大学、宇都宮短期大学、同附属高等学校、中学校の学生生徒から公募したもので、応募総数百五十二編、その中から選考の結果、最優秀賞に山崎麻世さん（当時附属高校二年八組）の作品「夢、語れ この学び舎で」が選ばれたのです。

〔祝賀会〕

記念式典後、会場を小ホールに移して、なごやかな祝賀会に入りました。須賀校長先生が「時間のゆるす限り御挨拶ください」とあいさつし、藤田政寿黒磯市長の乾杯で祝宴になり、校長先生や、万里子、英之副校長先生はお客さまの間をぬってホスト役を務めておられました。

車イスで出席された古い卒業生や旧職員の方々も母校のすばらしい発展ぶりに目を見張り、お互いに昔話を披露し合っていました。

足利銀行の柳田美夫会長の中締めのもとで、会場には笑顔や笑い声があふれていました。
永年勤続教職員名（敬称略）

太田茂雄（44年）、田淵 進（42年）、鈴木晶子（37年）、吉村成司（36年）、饒島 亨（36年）、仲山笑子（36年）、名倉佳子（34年）、白杵博之（33年）、大貫忠次（33年）、斎藤ゆり（32年）、新井好寿（30年）、金田敏彰（29年）、伏木政枝（29年）、根本英孝（29年）、島村敦雄（28年）、森嶋葉子（28年）、岡田一成（27年）、佐藤貞伊子（27年）、窪田恭子（27年）、皆川暁子（27年）、信夫 亨（26年）、松浦一雄（26年）、藤橋 渡（25年）、五十嵐紀子（25年）、佐藤みどり（25年）、森しげ子（23年）、手塚栄一（22年）、山形恵子（21年）

〔記念特別演奏会〕

十一月二十五日の記念特別演奏会は、本学園の六百名からなるオーケストラと合唱団による演奏が会場の県総合文化センターメインホールいっぱい流れ聴衆を魅了しました。

演奏会は、午前の部の午前十一時から在校生の高校一年全クラス、高校二年の十六組から二十四組までの各クラス計二百六十五名、午後の部は二時から高校二年の一組から十五組、高校三年の十四組から二十五組と中学全クラスの計二百八十一名が鑑賞しました。

夜の部は一般の方々を対象で六時から開演、大ホールをぎっしりとうめた聴衆から盛んに拍手がおくられました。

曲目はベートーヴェン作品 序曲「献堂式」、ヘンデル

ル作品「水上の音楽」、ヘンデル作品 オラトリオ「メサイア」、そして藤田正典先生作曲の創立百周年記念祝典曲として祝典序曲と学園歌が田淵先生の指揮で演奏されましたが、六百名の大コーラスには、翌日の各新聞が、その迫力とすばらしさを報じていました。

〔記念学校祭〕

W.C. 新しい時代の扉を見つげよう、

このテーマで、創立百周年を記念する平成十二年度の学校祭は例年より早い十月二十八日(土)と二十九日(日)の二日間、学内を開放して行われました。このテーマは全校生から募集したの中から三年十四組の加藤純子さんの作品が選ばれたものです。

今回の学校祭は百周年に一度の大イベントとあって、各科、各学年、各クラブなどの皆さんが大ハッスル。その夢と希望と喜びをぶつけて、すばらしいアイデアの催しや展示が校舎内外いっぱいに繰りひろげられました。とくに今回の目玉は、初めて校庭に模擬店がお目見えしたことです。

グラフ写真で紹介のように、中庭のプロムナードでは情報商業科によるお菓子やおちゃなどの売店、また調理科、生活教科による手製の小物アイデア商品や飲食物、金魚すくいなどのイベントもあって、訪れたお子

さんたちに喜ばれました。

北側の校庭では屋台村が出現、「いらっしやい、いらっ

しやい、安くておいしい料理がボリュームたっぷりだよ」と元気なかけ声がとび交い、校庭に設けられたテーブルを囲んで青空の下に、ゆく秋を満喫している人たちがたくさんおりました。

調理科の保護者の協力で餅つき実演販売も行われ、本校初公開のつきたてのお餅は大人気でした。

お天気にも恵まれ、二日間の一般来校者は四千人近く、前回は大きく上回りました。

〔須賀学園百年史の刊行〕

創立百周年の記念事業の一つとして須賀学園百周年史が刊行されました。

この百年史は、教職員、卒業生、PTAの皆さんの協力を得て校長先生が自らペンを執られたもので、ひかり輝く「全人教育・須賀学園の百年」のタイトルで、本学園百年の歩みを綴ったものです。

全校生ならびに保護者や卒業生の方々に一人でも多く読んでいただくために、従来の百年史スタイルを破って、物語風に読みやすく記述してあります。

表紙は本学園のカラーであるすみれ色とブルーを使い文字だけのシンプルなもの。本文は三百十六ページ、写真も、口絵写真はカラー十四点、本文写真はモノクロ百十六点。

なお別冊として、明治から昭和初期までの本学園の生の資料史を復刻した「須賀学園史資料集」(約二百ページ)

が同時に刊行されました。

〔創立百年記念学園歌〕

創立百周年を祝う記念の学園歌の歌詞は最優秀賞に山崎麻世さん(当時二年八組)の作品の「夢、語れ この学び舎で」が選ばれました。

また、優秀賞には高校の岡田真由美さん(二年六組)、別府あすかさん(二年八組)、佐生朝世さん(二年十組)の三名の作品が選ばれました。最優秀賞の歌詞を紹介します。

さあ 夢、語れ この学び舎で

三 弛まぬ歩みは明日への力

我らの笑顔は夢と希望に溢れている

風を抱擁いた鳥のように

気高くあれと願いながら

さあ はばたこう 純白の世界へ

記念学園歌

「夢、語れ この学び舎で」

一 永き歴史は偉大な誇り

我らの精神は勇氣と理想に溢れている

澄んだ瞳の鹿のように

優しくあれと願いながら

さあ 讀えよう 百年の栄光を

二 今日という日は新しい出発

我らの未来は愛と自由に溢れている

紫匂う花のように

美しくあれと願いながら



宇短大に人間福祉学科

平成十三年四月に開講！

◆音楽と人間福祉を学ぶ理想のキャンパス―21世紀のこころと身体教育センター―

音楽と人間福祉―私たちが毎日を心豊かに健康で暮らしていくために、いま一番求められています。この二つの分野を専門的に学ぶのにふさわしい環境と施設設備が用意されているのが宇都宮短期大学です。まさに21世紀のこころと身体教育センターです。

平成十三年四月に開学予定の人間福祉学科は、昨年十二月に文部省から、正式認可を得ました。社会福祉(募集定員百二十名)、介護福祉(同八十名)の両専攻で構成されています。

◆福祉への夢をみんなの力で実現しよう―人間を知る「人間福祉学科」―
社会福祉の様々な状況や立場に置かれて人々に対して「社会福祉専攻」は、専門的知識および技術をもってすべての相談に応じ、助言かつ援助を行

う社会福祉士になるために必要な基礎を学び、一方の「介護福祉専攻」は、これらの人々が円滑に生活できるように介護し、かつ介護者を指導する介護福祉士を目指す教育を行います。

(1)人間を知る人間福祉教育
(2)生活する人間福祉教育
(3)心の癒し重視の人間福祉教育
(4)地域社会と生きる人間福祉教育
(5)実践的カリキュラムによる人間福祉教育

(6)カリキュラムの有機的活用による人間福祉教育
以上、六つの教育理念を柱に、須賀学園創立百年の「全人教育」の伝統と、宇短大音楽科の三十有余年の実績を基に、この郷土、栃木で学び、暮らし、楽しみ、生きていく一人ひとりに優しく力強い福祉を提供する担い手を育成しようというものです。

そして、社会福祉専攻は社会福祉の各分野で支援活動、ソーシャルワーカーの仕事に就いて、二年間の実務経験を重ねて国家資格を受験することが可能です。

介護福祉専攻の卒業生は、介護福祉

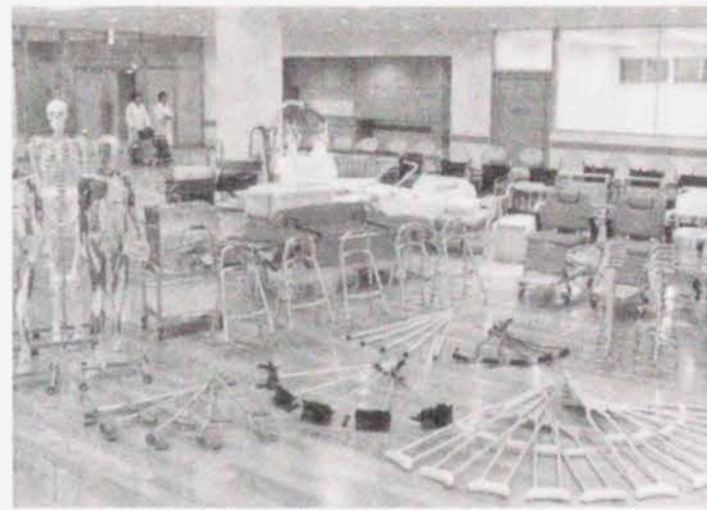
士(国家資格)の資格を卒業と同時に取得できるので、社会福祉士やホームヘルパーなどといつしよに、家族で介護に当たる家族に専門的な知識や技術の助言、指導等を行えます。

さらに、両専攻共通の取得可能な認定資格として、福祉レクリエーション、ワーカーやレクリエーション・インストラクター、キャンプ・インストラクターなどが挙げられます。

新学科長には、社会福祉士・介護福祉士制度の産みの親として著名な三友雅夫先生をお迎えし、福祉の現場とともにこれから中心になるであろう「在宅」というテーマに精通した実力ある教員スタッフも揃いました。先生方は大学の教壇ばかりでなく福祉施設や病院、NPO、研究所などの出身者で構成されています。社会福祉士、看護婦(士)、作業療法士、理学療法士、レクリエーション認定指導員、管理栄養士、さらには大学教授や医師など、それぞれの専門分野で活躍中のベテラン揃いであるのも大きな特徴です。

また、東洋建設の設計・施工による四階建の3号館新校舎も立派に完成し

ました。介護実習室や入浴実習室、調理実習室、演習室、多目的ホールなどからなる一階フロア。二階はコンピュータ実習室、講義室や教員センター、三階はグラウンド側からは一階部分に相当し、食堂（学生ホール）や学生広場、四階は図書館及び閲覧室、会議室などがあります。最新鋭のハイテク機器を完備した実習施設が、21世紀を担う新しい福祉教育を支えます。



すばらしい設備の人間福祉学科実習室

なお、全学生に携帯電話を持たせて、ホームページを通じ、すべての教務、教育活動が行えるシステムが導入され、履習届や出欠、授業の連絡、レポート提出、教員への質問など、あらゆる学生生活が「IT革命」の時代にも即応してきますので、大いに期待が集まっています。ぜひみなさんも、一度宇短大の新キャンパスへ足を運んでみてください。

四月からスタート 新しく医歯薬特進コース

四月新学期から本校の普通科に医歯薬特進コースが新設され、期待の第一期生を迎えます。
先に行われました第一回並びに第二回の入試には多数の志願者があり、一クラス三〇名の編成となる予定です。
本校の卒業生には東北大、秋田大、山形大などの国公立大医学部や慶応、独協、日大などの有名私立大医学部をはじめ東北歯科大、昭和歯科大学など

に進学し医学界で活躍している人が大勢います。
この本校の医歯薬系大学への進学実績を踏まえて、いっそう充実した指導により医歯薬系大学への進路達成を目指して特別編成のクラスとして「医歯薬特進コース」を設けたものです。
このコースは三年間同じクラスで独自のカリキュラムで取り組み、一年次から毎日の授業の中に大学入試センター試験対策を盛り込むほか、数学、理科等の授業時間も多く設けられます。



産経新聞（平成12・1・9）

リporter パワーの源泉

須賀学園副理事長

須賀英之さん(45)

〈須賀淳の長男、須賀英之は、日本興業銀行において貴重な勉強をさせていただいておりましたが、このたび本学園が創立百周年を迎えますのを機に、本学園に戻り、十月から学園の職務に専念することとなりました。つきましては、浅学非才でありますので、よろしく御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます〉

こんなあいさつ状が学校法人須賀学園・理事長、須賀淳、副理事長・英之の連名で、昨秋、産経新聞宇都宮支局に届いた。

へー、エリート・バンカーが学校の

要職に転進するのか。どんな人だろう。そんなことを思い浮かべていたころ、須賀学園・創立百周年の記念式典（平成12年11月9日）の招待状が郵送されてきた。

筆者（注・産経新聞宇都宮支局長渡辺茂大氏）の家から学園は近いこともあって「祝宴」をのぞいてみた。
英之氏(45)の肩書は、那須大学副学長、宇都宮短期大学長代理、宇都宮短期大

須賀学園副理事長
須賀英之さん(45)

生徒の個性伸ばす教育

肥満防止へ息子とジョギング

学附属高等学校副校長、宇都宮短期大学附属中学校副校長。大学、短大、高校、中学の「長」は三代目の父・淳氏(76)だ。将来、四代目に就任するであろう英之氏にとって、式典はニューリダーとしてのお披露目の場。やや緊張気味に「開会」「閉会」の辞を述べた。それから間もなく栃木県総合文化センターで催された百周年記念特別演奏会。栃木県総合文化センターメインホール玄関に立ち来客者に腰を低くアテンドするスカちゃん(愛称)の姿があった。

「少子化でやや過保護の感があるが、欠点を直すより長所に光をあて、持って生まれた能力を伸ばし、自信を持たせてあげたい」
 父子で産経新聞宇都宮支局に訪ねてきてくれた「栃木県民」を知るために、とちぎテレビ、宇都宮ケーブルテレビで県内ニュースを中心に見ます」などと、ソツなく答える息子に目を細める父親。リーダーのバトンをタッチは近そうだ。

◆誕生 昭和30年1月25日、東京都港区南青山で須賀淳(当時文部省勤務、現須賀学園理事長)、万里子の長男として生まれる。姉・道子(48)がいる。
 ◆学校 港区青南小→私立武蔵中→同高→東大(経済学部)
 ◆少年期 中高一貫教育の私立校でノビノビと過ごす
 ◆しつけ 父は育児や進路に全く口を出さず、母任せ。黙って成長を見守る。
 ◆大学時代 卒業アルバム編集長として学校行事や個人の写真撮影に熱中。航空カメラマンを目指してヨーロッパにも遠征。ポストン大で留学生生活を送る。

◆家族 妻・房江(東大文学部卒)(東京芸大教育学部助教授) 長男・友朗(8) 三鷹市立三鷹小2年。夫人はNHK教育テレビで「源氏物語」などを講義。家事・育児と仕事を両立。教育・研究者の立場から有益なアドバイスをしてくれることにも感謝
 ◆仕事 大学のゼミで隅谷三喜男教授(日本産業論)の影響を受け、昭和52年日本興業銀行に入行。外国営業部→大阪支店→本店人事部→産業調査部→営業部、と幅広い業務を経験。須賀学園百周年を機に、昨年10月から現職に就任。

平成十三年一月九日付け産経新聞の連載企画「リーダー」(副題パワーの源泉)という欄に、次代の本校をになう副校長の英之先生が大きく紹介されました。「生徒の個性を伸ばす教育」をめざす教育方針をはじめ、誕生、出身学校、仕事、家庭環境から尊敬する人物、血液型、体調に興味に至るまで細かに記載されていますので、ここにその一部を転載いたします。(編集部)

須賀学園の一〇〇年 年表

西暦	年号	月日	事項
一九〇〇	明治33	11・3	創立者・須賀栄子先生、宇都宮市西塙田町に共和裁縫教習所を創立。
		34	各種学校認可により、校名を共和裁縫女学校と改称(修業年限二年)。
		10	宇都宮市日野町に移転、別科を併設(修業年限一年)。
		2	校債を募集(一口二〇円、計二〇〇口、総額四〇〇〇円)。
一九一〇		9・12	須賀栄子校長先生、皇太子嘉仁親王殿下(後の大正天皇)に拝謁、褒詞を賜る。
		10・20	第一校舎を新築、宇都宮市河原町(現在の松が峰二丁目、現校長先生の自宅所在地)に移転。
		11・3	創立十周年記念式典を挙行。本科二年、別科一年、補習科六ヶ月の制に。

西暦	年号	月日	事項
	大正2	4	第二校舎を増築。
	大正2	11・9	生徒の入学・卒業期を、春秋(四月と十月)の二期に分け、裁縫科に手芸科を新設。
	大正5	5	第三校舎を増築、補習科を併設(修業年限一年)。
	大正6	6	補習科を第一専攻科、別科を第二専攻科と改称。
	大正9	9	第四・第五校舎を増築。
	大正12	12	文部省から甲種女子実業学校認可により、校名を宇都宮須賀女学校と改称。本科甲部(三年制)、本科乙部(二年制)を設置し、第一専攻科を研究科(一年制)と改称。
	大正13	13	新校歌を制定(現行)。
	大正13	3・8	本科甲部の修業年限を四年
	大正13	24	
	大正14	14	

一九三〇										
9	7	6	5	4	3	昭和2				
9	4	11	10	2	11	11	11	3		
		3	30	25						
<p>に改制。 創立二十五周年記念式典を挙行。 県下初のバザーを開催。(以後毎年開かれ、宇都宮市の名物となる。) 須賀栄子校長先生、昭和天皇御即位御大典に際する地方賜餐で、記念章を拝受。「教育ニ關スル御沙汰書」謄本を拝受。 須賀栄子校長先生、昭和天皇御親閲参加記念綬を拝受。教育勅語御下賜四十周年記念事業として、日曜講習会を開設。 創立三十周年 研究科を専攻科と改編。のちに専攻科の上に新たに研究科を設置。 校名を宇都宮女子高等職業学校と改称し、本科甲部を一部、本科乙部を二部と改称。 須賀栄子校長先生、女子教</p>										

一九四五										
20	18	17	13			11				
7	8	11	6			10	3	10		
12						14	9	14		
<p>育の功により、昭和天皇から単独拝謁を賜る旨の御沙汰を拝受。 創立者・須賀栄子校長先生急逝(享年六十二歳)。 栃木県立宇都宮工業学校教諭・須賀友正先生、第二代校長に就任。 須賀友正校長先生、宇工退任、従六位に叙せられる。同窓会によって、創立者・須賀栄子先生の銅像を建立。(本銅像は、昭和十九年、戦争中の貴金屬供出令で国に献納)。 文部省令により、学校勤労団を結成。 集団勤労作業を開始。 創立四十周年・皇紀二六〇〇年を記念して、講堂を新築。 学校敷地内に防空退避壕作りを開始。 戦災によって全校舎焼失(宇都宮大空襲)。</p>										

昭和21										
23	22									
3	4	3	4	3	2	10				8
					25	1				
<p>県立宇都宮工業学校の校舎を借用して授業再開。九月末から市立実践女学校(現桜小)と県立宇都宮第一高女(現宇女高)に別れて続行。 現校長・須賀淳先生、学徒出陣から復員、副校長として教壇に立たれる(のちに文部省勤務)。 須賀友正校長先生、栃木県立足利工業学校長を兼務。 宇都宮市西原町(のちに睦町と町名変更)の現在地(旧陸軍野砲兵第十四連隊跡地)に移転、戦災復旧、校舎整備を開始。 校名を、須賀高等女学校と改称。 生徒会誌「ひめまつ」第一号創刊。 学制改革により、須賀中学校を併設。 財団法人須賀学園に組織変更。</p>										

一九五〇										
		28		26		25	24			
10	10		4	1	11	6	12	4		
29	14				3	20				
<p>学制改革により、宇都宮須賀高等学校となる(家政科・普通科・商業科)。 須賀学園家庭専門部を併設。 須賀友正校長先生、県私立学校審議会委員に就任。 創立五十周年記念式典を挙行。 私立学校法の施行により、学校法人須賀学園に組織変更。 須賀友正校長先生、県私立中学高等学校連合会長に就任。 ソフトボール部、県大会優勝、関東大会優勝、第六回国体初出場(女子高校関東代表)、全国第二位。 創立者・須賀栄子先生二十年祭を挙行し、全校生徒が宇都宮市八幡山の墓所に墓参。 ソフトボール部、県大会優勝、関東大会優勝、第八回国体優勝、市内祝賀パレード</p>										

		平成9		10			
		6・4	3	8	11	9	3
		26	5	27	23	20	28
		新設。 住吉寮を廃寮。 中国浙江省教育訪日団が来校。 「国際理解・国際協力のため の全国中学生作文コンテ スト」特賞（日本放送協会 会長賞）（附属中、萩原歩） 新二号館校舎を新築。中庭 プロムナード完成。 須賀淳校長先生、県公安委 員長を退任、県警察本部顧 問に就任。 須賀淳校長先生、自治大臣 表彰（県各種委員功労） 須賀淳校長先生、厚生大臣 表彰（調理師養成功労） 調理科、第一回中国料理研 修旅行（浙江省杭州市） フライビンのインターアク トクラブが来校。 四号館木造校舎取り壊し、 二号館木造校舎解体。 中学生対象学校見学会（一 日体験学習）開始。					

		11					
		10	3	9	5	5	4
		22	19	18	17	17	17
		フランス・ヴォークリエー ズ県から研修団が来校。 大島威二教頭先生、教育功 労者として文部大臣表彰。 法務省・社会を明るくする 運動県実施委員会・宇都宮 保護監察所共催「社会を明 るくする運動作文コンテス ト」最優秀県知事賞、全国 大会法務大臣賞（附属中、 奥山紗由） 有井規（平成四年度調理科 卒）と小林孝博（平成五年 度調理科卒）がそれぞれ、 ベルギーとスイスの日本大 使館公邸料理人に。 那須大学（都市経済学部） を新設。 西側倉庫・部室棟を増築、 第四グラウンドが完成。 中国浙江省書画交流団が来 校。 那須大学開学式を挙行政。 第十七回全国都市緑化とち ぎフェア・イメージソンング					

		平成12					
		12	2	10	11	12	11
		31	21	1	26	27	26
		発表（歌唱者・附属高校音 楽科二年室井綾子） 那須大学、栃木県マロニエ 建築賞を受賞。 宇都宮短大人間福祉学科新 校舎起工式を挙行政。 全国食肉事業協同組合連合 会主催「第六回ファミリ ミートクッキングコンテス ト」農林水産大臣賞（鈴木 里佳） 「MILLENNIUM・RIVE・ IN・UTSUNOMIYA COUNT DOWN 2000」こ ころびとのまつり「ファッ ションショーに生活教養科 の生徒出演。 「須賀学園創立一〇〇周年 記念学園歌・歌詞」最優秀 賞（夢、語れ この学び舎 で」附属高校普通科二年山 崎麻世） 副校長・須賀英之先生、日 本興業銀行から本学園に戻 られる。					

		13					
		11	4	11	11	11	11
		3	1	25	9	25	3
		須賀学園創立一〇〇周年記 念誌「ひかり輝く」全人教 育「須賀学園の一〇〇年」 発刊（本文篇・史料篇） 須賀学園創立一〇〇周年記 念式典を挙行政（須賀栄子記 念講堂） 須賀学園創立一〇〇周年記 念特別演奏会を開催（県総 合文化センター） 宇都宮短大人間福祉学科増 設。 普通科に医歯薬特進コース を新設。					

を降りた時、達成できた満足感で一杯でした。

また、高校生活の中で新体操をやっていたことで、精神的にも強くなり、団結力・協力的など、たくさんの方の事を学ぶことができ、私達を大きく成長させてくれました。

新体操部は、わずかな人数ですが、一人一人目標を持ち、佐藤みどり先生と、いつもご指導してくださる小川澄恵先生の下、毎日楽しく練習に励んでいます。少しでも、興味・関心のある人は、是非、サブアリーナへ見学に来て、手具の魔術に魅せられてください。お待ちしております。

(部員 福富・稲葉)



学園告知板

PTA総会 阿部会長を選出

平成十二年PTA総会は五月二十日記念講堂で開かれ、平成十一年度事業及び決算報告と、平成十二年度事業計画案と予算案が可決され、新たに次の役員が選出されました。(敬称略)

▽会長、阿部正昭(留任) ▽留任▽副会長、柴田恒男(普通科後援会長)、松本 勲(生活教養科後援会長)、高田 孝(情報商業科後援会長)、佐山 良一(普通科後援会副会長) ▽留任、根本芳彦(前中学PTA会長・普通科後援会副会長) ▽留任、▽会計、田原 繁(調理科後援会副会長)、阿部暢夫(音楽科後援会長) ▽会計監査、阿部国昭(生活教養科後援会副会長) ▽留任、吉田光男(情報商業科後援会副会長)、生沼正一(調理科後援会副会長) ▽相談役、松岡祐祥(留任)、篠崎キ

ミエ(留任)、田村昭夫(留任)



校長先生から褒美をいただく
左から濱野さとみ、谷澤麻衣、東出真利子、
藤田 恵、西村泉美さんたち

小さな親切に拍手

西村さんら五人にご褒美

昨年の六月半ばに、宇都宮市今泉町に住む、主婦の大輪サト子さんから次のようなお便りが校長先生のもとに寄せられました。

梅雨の晴れ間のおだやかな一日となりました。突然のお便りでございますが、御校の女性徒の清々しい行動に感動いたしベンを執りました。

去る六月十三日(火)午後四時半ごろ、東野バス停留前のバス停で見た光景です。五、六人の女生徒が小雨の中宇都宮駅方向に歩いて参りました。いつもの仲良しグループなのでしょう、にぎやかに、にこやかにバス停に近づいた時、一人のお嬢さんが

「あれって、危なくない？」と言って戻りました。見ると、その先(東武ホテルグランド方向)へ白い杖を持った男性の後姿が目に入りました。歩道の目の不自由な方のためのタイルが横断歩道により途切れてしまっていたので

その方は、左寄りに少しずつ車道の方へ向いて歩いてました。幸い車が近づいて来ませんでしたので、難を逃れることができました。男性を正しい方向へ導いて、にこやかにグループに戻る一人のお嬢さんの、あの笑顔が忘れられません。バス停で見ていた中高年のおばさん達（私たちです）は、心からいい光景を目にしたと思いました。

嬉しいことは嬉しいと、悲しいことは悲しいと心をもっとふくらませたいものです。まともじゃありませんがとりあえずお知らせまで
六月十五日
大輪 サト子 主婦

祝 副校長 須



先生方からの花束をうける 英之副校長先生

今思うと、行動として表すことのできたお嬢さんは素晴らしいと思います。もっとはっきりと大きな拍手を送ってあげられたらよかったと思いました。ちよつとはずかしくなつてしまいいし訳ありませんでした。昨日駅にて制服を着たお二人に聞きましたところ、御校というのを知りお伝えしたくなりました。

このお便りにもとづいて、学校で調べたところ、生活 教養科二年十五組（久保田 学級）の藤田恵さん（野木 第二中）、東出真理子さん（大沢中）、と二年十八組（伊藤学級）の西村泉美（鬼怒中）、濱野さとみ（陽北中）、谷澤麻衣（間々田中）の皆さんとわかりました。

このたび副校長に就任された英之先生の、教職員による歓迎会が十月二十日に宇都宮市のロイヤルホテルで百五十名が出席して開かれました。英之先生は「皆さんとともに学校の発展と生徒の指導に努力します」と力強くあいさつされました。

お祝いの花束贈る 英之副校長先生の歓迎会

つづいて英之先生に花束が贈られ、乾杯のあと、饗庭、赤羽根両先生の司会で懇親会に入り、若い先生方の合唱やエッサッサなどの余興がありムードを盛り上げました。

リユーズ県のアヴィニオンにあるホテル学校で二週間、フランス料理の基本を学び、さらに豊かな国際的感覚を身につけてきました。

中国・フランスに 海外研修旅行

調理科では隔年で中国とフランスにそれぞれ海外研修旅行を行っています。「中国班」 平成十年三月から始まり今回で二回目。栃木県とは姉妹都市の関係にある浙江省の杭州市の浙江商業学校で一週間、本場の中国料理を学ぶとともに、日中友好関係を深めています。昨年の二月には調理科三年 直井朋之君ら二十名が参加しました。「フランス班」 平成五年二月から行われており、今年で七回目。この二月出発した調理科三年 吉田 裕行君ら二十四名の生徒が栃木県とは友好関係にあるヴォーク

ハウィックカレッジと交換研修

ニュージールランドのハウィックカレッジと姉妹校の縁結びを平成二年に行った本校では、それから毎年両校の交換研修授業を行ってきました。昨年は十一回目になり、七月二十六日から二週間、英進コース三年熊倉誠一先生ら二十五名がハウィック校を訪れてホームステイをしながら異文化を吸収、大きな成果を収めて帰りました。

スウェーデンからお友だち

昨年九月一日から国際ロータリー第二五〇地区交換留学生として、スウェーデンのヨックモック市からサラ アンナ セシリア クーメンさん（十七）という女子高校生が一年間の



クラスメイトに囲まれて楽しそうなアンナさん(中央)

予定でまいりました。さつそく制服をまとって二年一組（普通科）のクラスメイトの一人になり、毎日授業をうけています。クーメンさんはトナカイの飼育業を営む家のお嬢さんで、趣味は水泳、スキーなど。とても明るい性格です。

絵・伊藤君(212)
モデル・校長先生が最優秀賞
学校祭の先生似顔絵展

創立百周年を記念する昨年の学校祭で人気を呼んだ「私の先生似顔絵コンクール」では在校生の皆さんや卒業生や保護者の方々からの投票で入選作を決めました。

十月二十八日、二十九日の二日間で投票総数三百四十二票のうち有効投票数三百二十七票で、応募作品二十二点から二年二組の伊藤達也君の校長先生をモデルに描いた作品が五十二票と他を大きくリードして最優秀作品に選ばれました。

最優秀作品のモデル、作者、そして最優秀作品に投票した人たちの中から抽せんで、一年九組の村川浩之君ら三名に図書券(三千円)が贈られました。また次の佳作作品にも記念品が贈られました。

最優秀賞

52票 須賀校長先生

伊藤 達也(二年二組)

佳作

37票 森先生

36票 大森

29票 高橋

22票 高橋

22票 森嶋先生

22票 福田

22票 鶴田先生

22票 箱崎

大森 陽介(二年二組)

高橋 利康(二年六組)

高橋 利康(二年六組)

高橋 利康(二年六組)

森嶋先生 沙絵子(二年十組)

鶴田先生 真栄美(二年九組)

箱崎 真栄美(二年九組)



▲最高得点作(52票) 須賀校長先生



▲佳作(37票) 森先生



▲佳作(36票) 大東先生



▲佳作(22票) 森嶋先生



▲佳作(22票) 鶴田先生



人気を呼んだ「私の先生似顔絵コンクール」の会場

編集後記

明治三十三年（一九〇〇年）十一月三日、本学園の創立者・須賀栄子先生が、本校の母体である共和裁縫教習所を創立されてからちょうど百年。今年度は、この創立百周年を記念した学校祭や記念式典、特別演奏会の開催と、大きな行事が目白押し的一年間でした。恒例の校長先生の巻頭随想や、昨年十月に本学園に戻られた副校長・英之先生のコラムをはじめ、このたび皆様にお届けいたしました本誌の随所には、本学園に関わる多くの人々の確かな思いが凝縮されていると思います。それは、常に校長先生がおっしゃってられた「須賀学園の百年かわらぬ全人教育の精神」により育てられた私たち一人一人の思いに他ならないでしょう。

また、この平成十二年度は、大きな世紀の変節点、ミレニアム（千年紀）の終焉と曙光のときにもあたりました。今から千年前は、平安時代の一条朝。藤原道長が活躍し、清少納言の『枕草子』や紫式部の『源氏物語』が執筆されたころです。一方、百年前の一九〇一年（明治三十四年）は、与謝野晶子の『みだれ髪』が刊行され、歌壇に一大旋風を巻き起こした年代にも相当します。日本文学史に燦然と輝く偉大な文学者たちに一歩でも近づけるよう、私たち編集委員も伝統ある、そして本学園の「語り部」でもある「ひめまつ」の歴史と精神を、ささやかながら着実に次年度へ継承し続けてゆきたいと思えます。

最後に、本誌の執筆・編集に御尽力くださいました生徒の皆様、各クラスの編集委員、そして懇切なる御指導を賜りました顧問の和久誠先生、柳清和先生、石川智規先生に心から感謝申し上げます。

（編集委員長 下山祐亮）

校史と校章

昨年平成12年はミレニアム（新1000年紀）、20世紀最後の年であり、また本学園は11月3日に創立100周年の記念日を迎えました。すでに最大の記念行事として、平成11年4月には全国初の都市経済学部をもつ那須大学が開学し、またこの平成13年4月には、短大に待望の人間福祉学科が増設されます。

思えば、本学園は明治33年（1900年）に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学（音楽科）を新設し、高校も宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代目現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校（中・高6か年一貫教育）を併設され、那須大学開学、短大の学科増設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、本校生徒一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100年かわらずに脈々と生きつづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」を3個組み合わせる図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。（合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。）これは、須賀家の家系譜から第2代目校長須賀友正先生が校章と定めたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしていて、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に創立60周年記念事業の一環として制定されました。

「ひめまつ」第五十五号（非売品）
平成十三年三月一日印刷発行

宇都宮市睦町一番三十五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 柳 清和

発行人 生徒会長 齋藤 祐美

印刷所 宇都宮市鶴田町三五九の一

ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

印刷人 山本 征一郎

〇二八六四八二二一

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320-8585 TEL〇二八六三三四四一六一三番